



一昭和医科大学歯科病院の理念一

患者本位の医療
先進的医療の推進
医療人の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 長谷川 篤司
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1

TEL 03-3787-1151(代表)
いちいちごいち

ホームページ: <https://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

11月8日は「レントゲンの日」、レントゲン博士の誕生日に寄せて 歯科放射線科 診療科長・教授 松田 幸子

11月8日は「レントゲンの日」、そして「放射線の日」と呼ばれています。1895年のその日、ドイツの物理学者ヴィルヘルム・コンラート・レントゲン博士が、目に見えない不思議な光線を偶然発見しました。博士はそれを「正体不明の線」として“X線”と名づけました。

この発見から130年が経った現在でも、X線は医療の中で重要な役割を果たしています。歯科領域では歯や顎骨の中に生じた病気が対象となることが多いため、X線検査は必須です。むし歯の進行程度や歯根嚢胞（根の病気）、歯周病による骨吸収、親知らずの位置などはX線検査によってはじめて知ることができます。

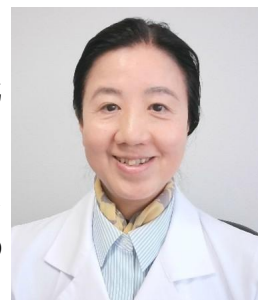
昔のX線検査は、単純撮影と呼ばれる撮影しかなく、三次元の我々の体は二次元でしか表示することができませんでした。歯や骨の中身を見ることができるといっても、十分には診断できないこともありました。その後、体の中のある断面だけを見やすく観察できる断層撮影法が開発されました。後に、この撮影法を応用したコンピュータ

断層撮影装置（CT）が開発されました。1990年代には「歯科用CT（コーンビームCT）」の登場により、顎骨の中にある神経の走行や歯の解剖構造をより細かく把握できるようになりました。これにより、歯の神経のあったところに行う治療や、インプラント治療、抜歯治療の際に、より詳細な検討を行うことが可能となりました。

レントゲン博士による発見が、このような形で発展し、今も世界中で人々の健康を支えていることを思うと、科学の恩恵を受けていると感じませんか。

これからも私たちは、皆さまのお口の治療に役立つ画像を提供しつづけてまいります。

今後ともよろしくお願いいたします。



- P1 11月8日は「レントゲンの日」
- P2 診療科紹介：歯科放射線科
- P3 新入職員 ご挨拶
- P4 診療科紹介：三叉神経痛・顔面痙攣総合センター

記事見出しの色分けをいたしました。

患者さん向け、医療機関向け、お知らせなど

診療科紹介：歯科放射線科

歯科放射線科 助教 笹間 雄志

歯科放射線科では、主にX線を用いた画像検査と、その読影を行っています。歯や顎の骨の中に発生する病気は外からは見えにくく、こうした病変を「画像」として可視化し正確な診断や適切な治療方針を立てるために、X線検査は欠かせない重要な検査です。

代表的な検査には、お口の中に小さな板状の器具を入れて撮影する口内法X線検査があります。これは歯の1本1本を詳細に確認でき、むし歯や根の病気の診断に欠かせません。また、上下の顎を一度に撮影できるパノラマX線検査も広く行われており、顎全体を確認できるため広い範囲の病変の発見や、症状が出ていないむし歯・歯周病の早期発見にも役立ちます。

さらに当科では、歯や顎骨を三次元的に確認できるCT装置を複数設置しています。CT検査では、歯や顎骨内の病変の立体的な広がりや位置を把握できるほか、矯正治療や外科治療、インプラント治療などの際に骨の厚みや形態を評価したり、神経や血管などの重要

な構造の位置を確認したりと、さまざまな治療において重要な役割を果たしています。私たちは患者さんの治療に貢献できるよう、常に高品質で診療に役立つX線画像の提供を心がけています。

日常の撮影業務は診療放射線技師が中心となっており、歯科医師は画像診断や画像管理、CT検査時の造影剤投与、診断報告書の作成などを担当しています。また、昭和医科大学病院放射線科と連携し、歯科病院では実施していないMRI検査などの画像診断にも関わっています。

当科では地域の医療機関からの一般X線撮影やCT検査のご依頼も承っております。またCT検査後には歯科放射線専門医が読影報告書を作成し、画像データと併せて郵送にてご報告しています。矯正治療やインプラント治療、顎骨の疾患などで三次元的な画像診断が必要な際には、ぜひ当科をご利用ください。

歯科放射線科医が直接患者さんに対応する機会は多くありませんが、検査についてご不明な点がございましたら、どうぞお気軽にスタッフまでお声かけください。



本年度新規導入された歯科用コーンビームCT



X線画像撮影の様子

新入職員 ご挨拶

本年4月より、障がい者歯科に助教（歯科）として入局いたしました、徳増梨乃と申します。私は、昭和大学歯学部を卒業後、臨床研修と同時に大学院へ入学、昨年3月に大学院を修了しました。

当科では、歯科診療に特別な配慮が必要とされる方々の診療を行っており、障がいの種類や程度、年齢などの制限は特にありません。障がいのある方々の口腔の健康を保つため、う蝕（むし歯）や補綴治療に限らず、予

防治療にも力を入れております。全身疾患にも配慮し、他診療科や医科との連携を図り、安全に歯科診療を行えるよう努めております。

患者さん一人一人の性格や障がいの特性、患者さんを取り巻く環境などを理解し、患者さんとそのご家族との信頼関係を大切にしながら、より良い歯科診療を行うべく、精進して参りたいと思います。

障がい者歯科 助教（歯科） 徳増 梨乃

本年4月より歯科麻酔科に入局いたしました松本里菜です。

歯科麻酔科では、循環器疾患をはじめとする全身疾患を有する方や、障害のある方だけでなく、歯科治療に強い恐怖心を持つ方にも安心して治療を受けていただけるよう、全身麻酔や静脈内鎮静法を日々実施しております。

私は臨床研修を修了後、1年間の語学留学を経て、この度入局いたしました。当院には

海外からも歯科麻酔管理を希望される患者さんが多く来院されます。今後は語学留学の経験を活かし、言葉の壁を感じることなく安心して治療を受けていただけるよう努めてまいります。一人ひとりの患者さんに寄り添い、安全で質の高い麻酔管理を行えるよう研鑽を重ねてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

歯科麻酔科 助教（歯科） 松本 里菜

昭和医科大学歯科病院口腔機能リハビリテーション科の植田さゆりと申します。私は本学卒業後、1年間外部病院で研修し、今年から本学大学院に入学いたしました。

当科では、言語聴覚士、歯科衛生士などの専門のスタッフと歯科医師が連携を取り合いながら診療する体制が整っているため、摂食嚥下障害（飲み込みの障害）から言語障害まで、さまざまな口の機能障害に多角的な視点から対応できる点が魅力であると感じており

ます。

私は学生の時に、口から栄養をとることが全身の健康や健康寿命の延伸に繋がることを学び、摂食嚥下の分野を専門とした歯科医師になりたいと考えるようになりました。大学院では診療や研究を通して、摂食嚥下機能に問題を抱えている患者さんに貢献できるよう、精一杯努めてまいります。

口腔機能リハビリテーション科 大学院生
植田 さゆり

診療科紹介：三叉神経痛・顔面痙攣総合センター

医科歯科連携診療歯科 診療科長・教授 マイヤース（田代） 三恵

顔面の痛みや顔面がピクピク動く、頬がこわばるなどの症状があると、日々の生活に大きな影響を及ぼします。三叉神経は、顔、口、歯および歯肉の感覚を脳に伝える神経です。三叉神経痛の場合、その痛みが「歯の神経の痛み」や「顎の痛み」と似ているため、多くの方が最初に歯科医院を受診されます。

三叉神経痛の痛みは、顔面に電気が走るような激痛として現れ、むし歯や歯の根の炎症による痛みと区別が付きにくいことがあり、「歯が原因だ」と思い込んでしまう方が非常に多いのです。しかし、その痛みの本当の原因が歯ではなく、脳の血管や腫瘍などが三叉神経を圧迫していることによる場合、どんなに歯の治療をしても痛みは治まりません。この「似た痛み」が問題で、三叉神経痛であるにもかかわらず、原因は歯にあると思い込んでしまい、健康な歯を失ってしまうケースもあります。

当センターでは、医系総合大学の強みを活かし、脳神経外科を中心に、脳神経内科、耳鼻科、眼科、歯科口腔外科など関連各科が密に連携し、詳細な問診、歯科領域の精密検査

および画像診断（MRIなど）を行うことで、痛みの原因が歯や顎の問題か、三叉神経痛であるかを正確に鑑別します。

三叉神経痛と診断された場合、薬物療法や血管や腫瘍の圧迫を解除する外科的治療が検討されます。外科的治療が適応となった場合は、センター内での情報共有により迅速に脳神経外科医へと引き継ぎます。また歯科は、単に診断をするだけでなく、手術前後の口腔機能の管理、術後の顎機能のリハビリテーションにおいて、生活の質を支える役割も担います。

医科歯科連携診療歯科は、当センターの歯科病院の窓口となっております。顔面の激しい痛み、痙攣などの症状でお困りの方は当科にお問い合わせください。笑顔で快適な日常生活を取り戻すお手伝いをいたします。

関係医療機関の先生方へ【三叉神経痛・顔面痙攣総合センターのご案内】

昭和医科大学病院
三叉神経痛・顔面痙攣総合センター
～新規開設のご案内～
医系総合大学のメリットを生かした新たな取り組み

～2025年8月より「三叉神経痛・顔面痙攣総合センター」を開設いたしました～

脳神経外科、歯科、耳鼻咽喉科、眼科、脳神経内科、ペインクリニックなどが密に連携をとりワンストップでの総合的な診断・治療を目指します。長年の経験から診断治療に至るまで時間を費しご苦勞される患者さんを多数診てまいりました。センター化により患者さんの身体・精神的負担を軽減することが可能になると考えております。

脳神経外科 教授 三叉神経痛・顔面痙攣診療歯科 三恵
センター長 三恵
副センター長 マイヤース（田代） 三恵
耳鼻咽喉科 教授 三恵
脳神経内科 教授 三恵
ペインクリニック 講師 三恵
眼科 講師 三恵

日本神経学会の認定施設です

コンセプト
三叉神経痛・顔面痙攣に対して医系総合大学の強みを生かした、他の施設ではマネのできない満足度の高い総合的なケアの実現です。

特徴
脳神経外科を中心に、歯科口腔外科（口腔ケア）、耳鼻咽喉科、眼科、脳神経内科、麻酔科（ペインクリニック）、放射線科といった関連各科と密に連携をとり、対象疾患に対し、脳神経外科手術治療を軸としながら多様な症例に対応する総合的な診断と治療の実現を目指します。

窓口
センターへ受診ご希望の場合は、脳神経外科院にご紹介ください。
●診療日● 月曜日：新井 孝太郎医師
木曜日：清水 克俊医師、松本 政博医師
※医療連携室で予約をお取りします。
昭和医科大学歯科病院受診の方は、主治医または医科歯科連携診療歯科にご相談ください。
口腔内をチェックいただいたのち、脳神経外科を受診いただく流れになります。

【お問い合わせ/予約】 医療連携室 令和7年9月1日 昭和医科大学病院
医療機関専用 03-3784-9400 先行責任者病院長 相良 博典

編集後記

急に寒くなってきました。東京都でインフルエンザ流行情報が発表されたようです。急な気温の変化に体調を壊すことの無いように、皆様お気を付けて元気な師走をお迎えください。



(M.Y)